

今泉集落「集落営農ビジョン」
(人材確保型支援 ・ 規模拡大・発展型支援)

※該当する支援メニューに○を記入

作成日：2021年 4月23日

修正日： 年 月 日

市町村名	三朝町	組織名	農事組合法人 泉の里生産組合
1 地区の範囲 東伯郡三朝町 今泉地区			
2 地区の概要			
水田面積	11.6ha	主な水田栽培作物	水稻 農家数22戸
認定農業者数	1経営体	人・農地プランの中心となる経営体数	1経営体
3 組織の概要			
設立時期 (規約等の制定日) 平成14年2月11日		経営面積 10.39ha	構成農家数 12戸
組織形態 (該当形態に○を記入) ・ 共同利用型 ・ 作業受託型 ・ <u>協業経営型</u>			
役員の数・年齢 3人 (平均年齢71.7歳)			
オペレーターの数・年齢 9人 (平均年齢60.9歳)			
その他集落営農活動に参画している人数・年齢 3人 (平均年齢53.7歳)			
4 集落営農に対する基本方針			
【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】			
(1) 担い手の明確化及び水田利用集積目標			
<p>○将来における地域の高齢化や農業の担い手不足の解消等持続可能な集落農業の在り方を検討し、平成14年に地域の担い手として農事組合法人泉の里生産組合を設立し、担い手不足の解消を図っている。現在の組織は、70代3名、60代5名、50代1名、40代2名、30代1名の組合員で構成。</p> <p>3年以内には、60代2名、40代1名の新規加入を予定しており、持続可能な組織として組織体制を維持するため、構成員の新規加入を継続的に取組む。また、オペレーターの養成を図り、スムーズな作業実施を行う。2年後には水田利用集積面積を現状より10%増やす予定。また、現在組合員が各自で作業している自己耕作田も、将来的には組合が受託していくことを計画している。</p>			
(2) 水田の作付計画 (水稻以外の作物を含む)、活用方針・具体策			
<p>○現在はコシヒカリを栽培している。減農薬や有機肥料等の使用で、安全で美味しい米として品質の向上を目指して栽培に励んでいる。泉の里コシヒカリ「とんがり米」として売り出していく取り組みをスタートした。また、集落内には、星空舞を栽培している組合員もあり、市場の動向にも注目しながら、鳥取県が推奨している星空舞の栽培も検討したい。</p> <p>さらに、米つくりのうら作として10月から6月の時期に作付け・栽培・収穫ができるニンニクの栽培に試験的に取組んでおり、将来的に1年を通じて水田活用ができる方法を検討中である。</p>			

(3) 農業用機械施設の効率利用

○コンバイン 1 台、田植え機 1 台を生産組合として所有している。耕運及び田植えについては組合所有の機械と組合員所有の機械を割り振り、効率の良い運用を行っている。生産組合が組織として借り上げている田も年々増加し、さらに近隣集落からは刈り取り依頼も増加し処理量が増えてきている中、乾燥、籾摺り、精米の施設の機能向上を図る必要が生じてきた。導入する機械には、遠赤外線機能がついており乾燥がより均一化され省エネとなり環境にも優しい機械となっている。また、色彩選別機の機能向上により、米の品質の向上とロス削減が期待される。

JA の施設は受け入れ日数や曜日が決まっており、特に刈り取りは天候に左右される。耕作作業面積の増加に伴う効率の良い収穫と処理能力の向上や、自主販売米としての品質向上のためには乾燥機等の施設の機能向上が必要不可欠である。なお、自主販売量は、現在、約 7,500kg (250 袋×30kg) であるが、機械導入に伴い、10,500kg (350 袋×30kg) に増加することを目指している。

(4) 人材の確保、後継者育成に関する方針

○現在 12 名の組合員で組織している生産組合も、60 代以上の割合が 67% を占めている。令和 3 年度には 40 代が 1 名組合員として加入予定であり、今後も未加入の若者の加入を勧めていく予定である。さらに非農家の若者も組合組織の後継者として勧誘予定である。60 代以上の組合員の割合が 50% 以内となるように順次勧誘を実施していく。

(5) 経営多角化の方針・具体策

○現在、収穫した米は JA に出荷せず、自主米として直接販売を行っている。集落内のとんがりハウス（公民館）において、月に 2 回（第 2、第 4 日曜日）定期的に販売するとともに、組合員が開拓した飲食店や個人消費者に販売している。そのほかスーパーや直売所等への卸し、特売日の設定等年間を通して安定的に販売できる環境を整えていくための会議を適宜開催している。

今年から「三朝産 泉の里コシヒカリ とんがり米」として売り出しており、三朝米との相乗効果を期待している。令和 3 年度にはもち米を加工品として販売する計画を立てている。

また、泉の里生産組合のホームページを立ち上げ、Twitter やインスタグラムでお米の魅力を紹介するとともに、インターネット販売を検討中。（令和 3 年 5 月から）

さらに、米つくりの裏作としてニンニク栽培を検討しており、現在農地の一部を使用しニンニクの試験栽培を行っている。（5a）

【人材確保型支援は記入必須】

5 人材確保のための取組方針

【項目】	【実施年度】		
	○年度	○年度	○年度
人材育成研修	実務研修		
	免許取得		
	その他		
集落営農活動への参画			

【人材確保型支援（うち畦畔管理省力化支援）は記入必須】

6 畦畔管理の省力化のための取組

(1) グランドカバープランツ施工計画

施工場所：

施工対象面積（畦畔実面積）： ha

本田（＝水張）面積： ha

年数	内容	面積 (ha)	金額 (円)	実施年度
1年目				
2年目				
3年目				

注1) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

(2) 畦畔管理用機械導入計画

(機械利用対象畦畔面積 ha、本田（＝水張）面積 ha)

機械施設名	規格能力	台数等	金額 (円)	導入予定年月

(3) 畦畔管理用作業の状況

内容	現状 (年度)	事業実施後 (年度)
取組対象（予定）面積 (ha)		
取組対象面積当たり年間 作業時間		

注1) 取組対象圃場について記載すること。

2) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

【規模拡大・発展型支援は記入必須】

7 集積（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標

【項目】		【現状】	【目標】 令和4年度
農地 の 集積	集積面積 A	7.69 ha	8.91 ha
	対象水田面積 B	10.90 ha	10.90 ha
	集積率 A/B	70.5%	81.7%
	地区外集積面積 C	2.7 ha	3.13 ha
	経営面積 A+C	10.39 ha	12.04 ha

経営の多角化への取組		
------------	--	--

注1) 経営の多角化への取組は、該当する場合のみ記載すること。

8 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額 (円)	導入予定年月	本事業による導入機械に○
乾燥機	50石	1台	2,656,500円	R3.8	○
	40石	1台	2,524,500円	R3.8	○
石取機	1800kg/h	1台	462,000円	R3.8	○
選別計量器	600-1920kg/h	1台	363,000円	R3.8	○
光選別機	0.4-2.3t/h	1台	3,396,800円	R3.8	○
送塵機	1400-2000RPM	1台	107,800円	R3.8	○
精米機	240kg/h	1台	561,000円	R3.8	○

9 添付資料

- 人材確保型支援は研修計画一覧（参考様式）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）を添付すること。
- 規模拡大・発展型支援は集積状況一覧（別表1、2）、機械の利用計画（別紙）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）を添付すること。

注1) 目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。

2) 経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧（別表1、2）により作成すること。